

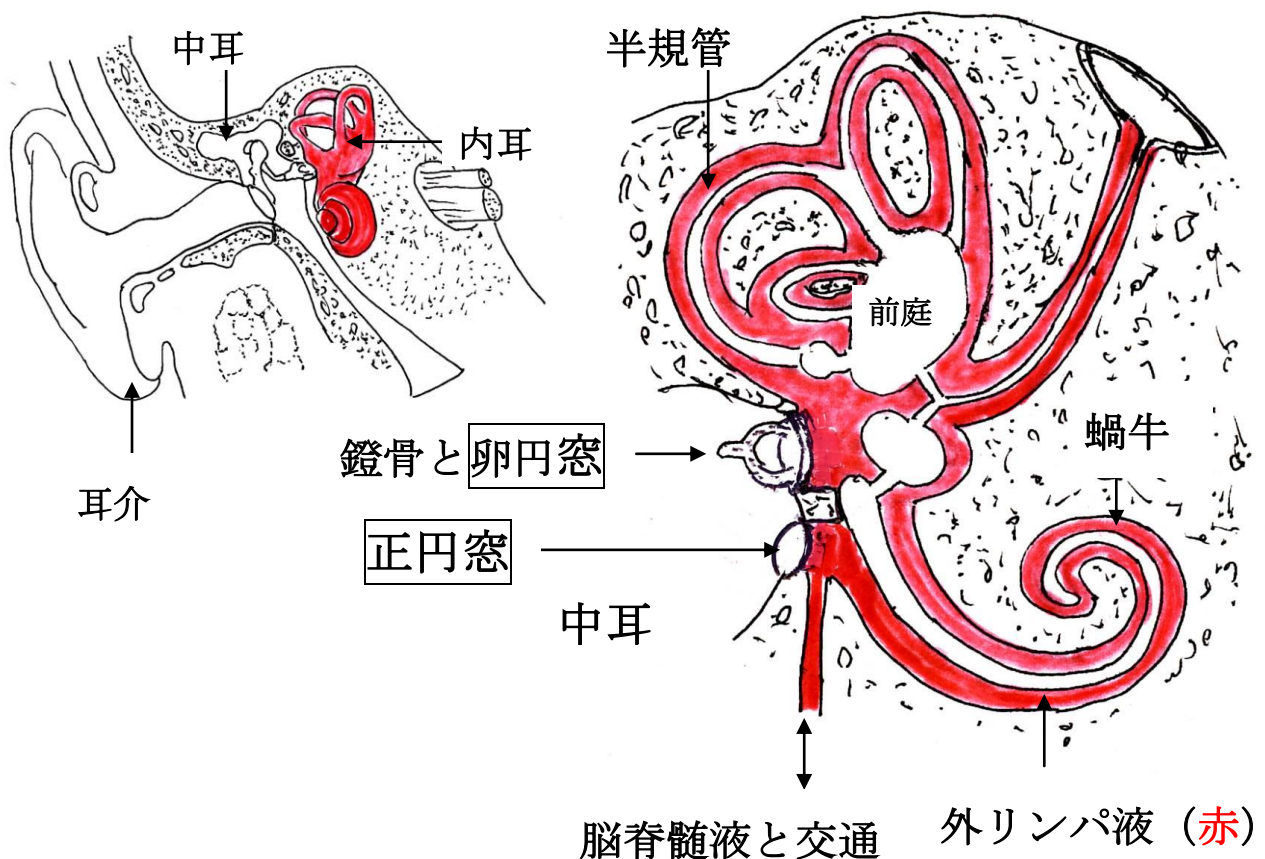
内耳窓破裂症による外リンパ瘻： 頻回の耳掃除の危険性

(古賀総合病院耳鼻咽喉科：永井)

めまいと急性の難聴の中に、
手術でよくなる疾患があります。

内耳窓破裂症とは

内耳窓破裂症とは、内耳と中耳の間にある卵円窓あるいは正円窓（下図の□→の部位）が破れ、外リンパ液が中耳に漏れる病気です。蝸牛に傷害が生じると、耳閉感と難聴と耳鳴が起こり、前庭と半規管に傷害が生じると、回転性めまいとふらつきが起こります。



症状

内耳窓破裂症の症状には、3つのタイプがあります（論文1）。

1. 急に難聴が発症するタイプです。めまいを自覚しない場合と、回転性めまいあるいはふらつきを伴う場合です。突発性難聴に似ています。突発性難聴の治療後にめまいが残っている場合は、外リンパ液が漏れている可能性があります。
2. 聴力は正常で、急に激しいめまいだけが発症するタイプです。前庭神経炎に似ています。
3. 変動する難聴とめまいを反復するタイプです。メニエール病に似ています。めまいが2日以上続く場合は、外リンパ液が漏れている可能性もあります。

誘因

1. 脳髄液圧あるいは中耳圧の急激な上昇を起こすような行為（重量物の運搬、鼻かみ、飛行機、潜水）
2. 頭部打撲（発症の直前～数十年前）
3. 耳外傷（耳搔きの器具が奥に入り鎧骨を脱臼、平手打ち）
4. 頻回の耳掃除（週に1回以上、5年以上、入り口から1cmより奥の骨部外耳道をこする習慣）（論文2）。

発症を示唆する症状

1. ポンと音がして発症

2. 水の流れるような耳鳴, 水の流れる感じ、ぷつぷつという耳鳴

3. 耳の痛みを伴う場合があります。

診断

診断は、誘因、歩き方、表情、鼓膜所見、頭位で変わる眼振、変動する難聴、CT 検査所見のそれぞれが、私が経験した 360 例以上の外リンパ瘻の症状と所見に合っているかで判断しています。

治療

安静をお勧めするのは、生活にさほど困らないめまいの場合です。誘因の脳脊髄圧の上昇を避け、耳掃除を止めるなどの生活改善で、8 割の人は治ります。

手術をお勧めするのは、激しいめまいや持続するふらつきで生活に困る場合と、急性の難聴が保存的治療を行っても改善しないあるいは進行する場合です。

手術方法

内耳窓閉鎖術は局所麻酔下に耳後切開で行います（文献 2）。手術時間は 1 時間くらいです。入院期間は 1 泊 2 日です。

手術の欠点は、耳後部の切開のために耳介の感覚が数ヶ月鈍くなる事と、時に手術側の舌の前半分の味覚が低下する事と、まれに聴力が若干低下する事です。

手術成績

手術によってほとんどのめまいが消失あるいは著明に改善します（論文 2）。

手術の時期が難聴の予後と関係があります（論文 3）。60dB 以上の急性の高度難聴が治癒か著名回復（30dB 以上の回復）した割合は、発症から 1 週間以内に手術を受けた方の 68%、2 週目に手術を受けられた方の 41%でした。しかし 3 週間目以降に手術を受けた方は、著名回復した人がほとんどいませんでした。また完全聾の方は実用聴力域に戻りませんでした。

自著論文

1. 永井知幸（2012）内耳窓破裂症による眩暈と難聴. 医療 66 : 99 – 102
2. Nagai T Okamoto M (2022) Association of ear-cleaning habits involving the deep bony portion with perilymph fistula of the oval window. Kitasato Medical Journal 52(2): 67-72
<https://www.kitasato-u.ac.jp/ktms/kaishi/pdf/KMJ52-2/KMJ52-2p067-072.pdf>

要約の和訳

題名：骨部外耳道深部の耳掃除の習慣と卵円窓の外リンパ瘻の関連性について

背景：最近の研究では、耳掃除の習慣に関連した非外傷性の内耳障害が報告されている。目的：当院の外リンパ瘻患者の検査では、耳掃除の習慣により、骨部外耳道深部に耳垢が附着し、その後面に横シワが認められることがしばしばある。我々は、しわの存在と耳掃除の頻度

と外リンパ瘻の発症の関係を明らかにすることを目的とした。方法：188例の外リンパ瘻患者の記録を後ろ向きに調べた。105例の患者には、骨部外耳道深部の後壁にシワがあった。内耳窓は、液漏れ、アブミ骨の異常、あるいは粘膜病変が認められた場合にのみ閉鎖した。結果：しわと閉鎖した内耳窓は、週1回以上の耳掃除の習慣と有意に関連していた。週1回以上耳掃除を行い、しわがある患者は、閉鎖した卵円窓の割合が最も多かった（Fisherの正確検定、 $P < 0.001$ ）。結論：1週間に1回以上の耳掃除に伴って骨部外耳道の深部の後壁に触れる習慣は、卵円窓の外リンパ瘻と、浮動性めまい、回転性めまい、急性感音難聴などの内耳障害の危険因子である。

3. Nagai T, Nagai M (2012) Labyrinthine window rupture as a cause of acute sensorineural hearing loss. Eur Arch Otorhinolaryngol.269: 67-71.